

血管内皮細胞の管腔形成阻害を標的とした新規血管新生阻害剤の開発

24-A-08

鳥取大学 医学部
准教授：尾崎 充彦



ビジョン

- 単剤で効果を示す経口投与可能な血管新生阻害を新たに開発し、既存薬の課題を解決する。
- 既存の血管新生阻害剤とは全く異なるコンセプトによる新規血管新生阻害剤を開発し、副作用及び薬剤耐性出現の低い治療法を提供する。

市場性

- アバスチン等の既存薬および他の抗がん剤等との併用および既存薬抵抗性患者を対象として上市されると予測。
- 対象となる患者数：悪性腫瘍（100万人/国内、新規患者：1810万人/世界）、加齢黄斑変性（90万人/国内、新規患者：年間3万人強/国内、2000万人/世界）、糖尿病網膜症（140万人/国内、2000万人/世界）
- 世界市場では251億5,000万米ドル(2023年)から、2031年には539億5,000万米ドルへの成長が予測(<https://www.gii.co.jp>)。

新規性・優位性

- Mode of Action (MoA) の新規性：血管新生に関わる増殖因子とその受容体以外を標的としており、増殖因子の存在の有無や受容体の活性化の如何に関わらず、血管新生を阻害可能
- 既存薬と標的が異なることで、既存薬との併用による相加・相乗効果の期待および既存薬耐性症例への適応

連携への関心

【連携に関心のある業種】

製薬企業
バイオテック/創薬支援

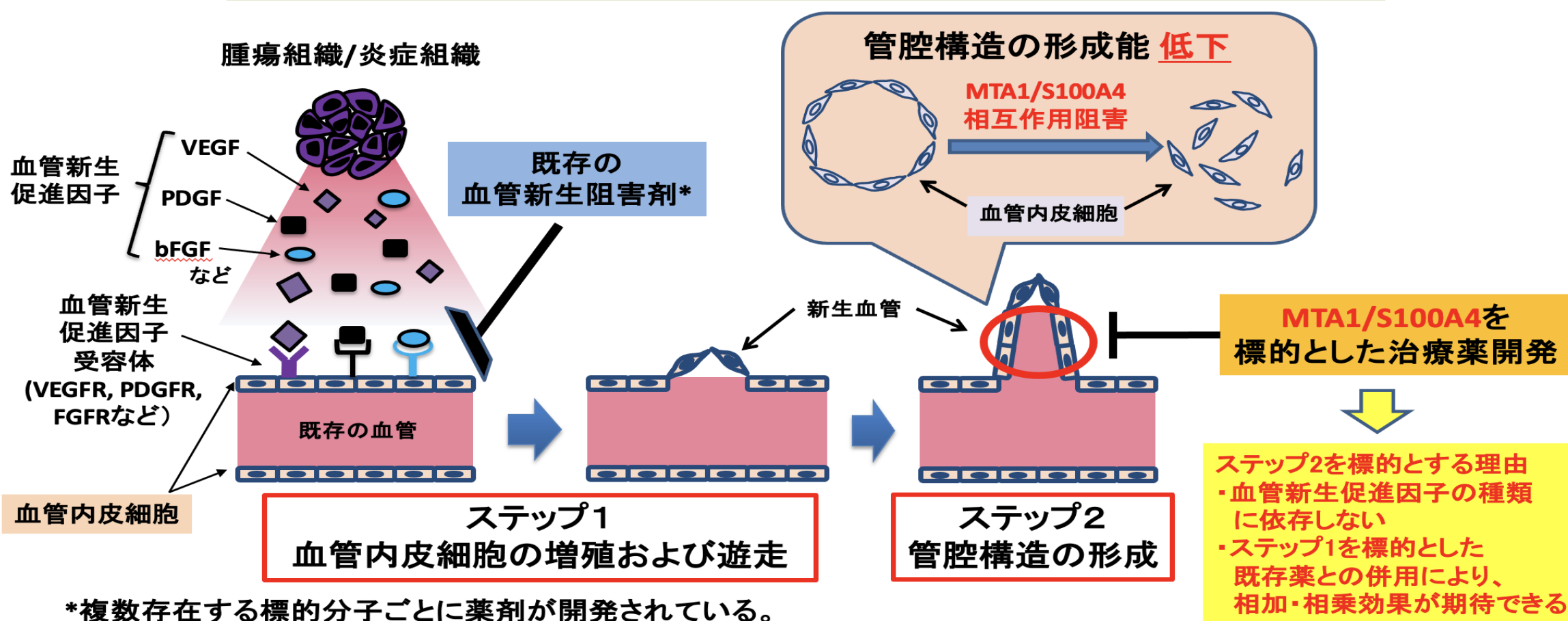
【連携に期待する事】

特許の共同出願

研究概要

Key Words: #低分子化合物, #がん予防, #新規血管新生阻害剤

既存の血管新生阻害剤とは全く異なるコンセプトによる新規血管新生阻害剤を開発



【関連文献】 Ishikawa, Mizuho, Osaki, Mitsuhiro, et al. (2019) Oncogene 38: 4715-4728.
Ishikawa, Mizuho, Osaki, Mitsuhiro, et al. (2022) Mol Med Rep 25: 11.